

君不見吉次險險於城 突兀摩空路崢嶸  
煙籠高瀨河邊水 風捲三嶽峰上旌  
一朝傳警笑相封 忽聞千軍萬馬聲  
硝煙爲雲丸爲雨 壯士一命鴻毛輕  
吶喊聲和巨砲響 山叫谷吼乾坤轟  
砲聲絕處松聲寂 一輪皎月照陣營

吉次峠の戦（佐々友房）

君見ずや 吉次の 険は

城よりも 険なるを

突兀 空を 摩して 路 崢嶸

煙は 籠む 高瀨 河辺の 水

風は 捲く 三ノ嶽 峰上の 旌

一朝 警を 伝え 笑つて 相對するに

忽ち 聞く 千軍 万馬の 声

硝煙 雲と 為り 丸 雨と 為る

壮士の 一命 鴻毛より 軽し

吶喊の 声は 巨砲に 和して 響き

山 叫び 谷 吼え 乾坤 轟く

砲声 絶ゆる 処 松声 寂なり

一輪の 皎月 陣營を 照らす

解説 西南戦争中、最も激しい戦いの一つだったといわれる吉次峠の戦いを詠じた詩。

語釈 ※吉次峠||熊本県玉名郡玉東町。

田原坂には、村田新八隊と別府晋介隊。吉次峠には、篠原国幹隊と熊本隊。桐野利秋隊は北の山鹿方面の守りにについている。※君不見||諸君はご存知だろう。※突兀||高く擡んでそびえるさま。※摩空||天に届くばかりに高い。※崢嶸||深遠で険しいさま。※煙籠||煙がたち込めている。※風捲||風が吹いて物を巻きあげる。※旌||旗指物。※千軍萬馬||多くの軍隊と多くの兵馬。※硝煙||鉄砲の火薬の煙。※丸爲雨||激しく鉄砲を打ち合う。※壯士||血気盛んな丈夫。※鴻毛||おおとりの毛。※吶喊||突撃の叫び。※山叫谷吼||鉄砲の炸裂する音が響き渡るさま。※乾坤||天地。※一輪||明月など、丸いものを表現する時に用いられる。※皎月||明月。

通釈 君はすでに知っているであろう、吉次

峠の険峻なること、城の石垣を攀ずる以上に困難なことを。崖は天空に切りたち、路は高く険しく、千仞の谷に臨み、山裾を縫って流れる高瀨川には霧が涌き上がって視界もはつきりとせず、三ノ岳の峰には強い風が吹きすさび、旗指物を宙に捲きあげている。そうした中で、敵襲来の声が届き、笑って刀を抜いて相對すると、こちらめざして、群をなして、押し寄せる兵と馬の波。鉄砲の硝煙は、もうもうとして雲となり、飛び来る弾は、雨と霰とばかりに降り注ぐ。我ら壮士の一命は鳥の羽より軽い。今こそ死ぬべき時である。突撃の喚声は砲声に和して山に叫び、谷に吼え、天地を動かして響く。やがて、砲声がやみ、松の梢を渡る風が、あたりを静寂なものに感じさせるころ、一輪の明月が中天に冴えわたり、死屍が連なる陣營を照らし出している。